

## 第4回霧ヶ峰自然環境保全協議会議事録(要旨)

- 1 日時 平成20年5月9日(金)  
午後2時00分から午後4時10分まで
- 2 場所 諏訪合同庁舎 講堂
- 3 出席者 35団体(別紙のとおり)
- 4 会議内容

(土田座長)

霧ヶ峰自然環境保全協議会の座長を務めさせていただいております土田勝義でございます。本日は、皆様お忙しい中ご参集いただき、ありがとうございます。

年度が改まりまして、構成団体の代表者の交代、人事異動等により新しくご出席いただいている皆様もいらっしゃいます。昨年度に引続き関係団体から活発なご意見をいただきながら、霧ヶ峰の保護と利用のあり方について検討してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、前回は承認いただきました「地方の元気再生事業」の国への提案について具体的内容のご決定をいただきます。

また、本日の後半では、目指すべき霧ヶ峰の姿を実現するために実施する事業の議論を前回に引続き行います。

協議事項に入ります前に、本年度最初の協議会ですし、新しくご出席されている方もいらっしゃいますので、まず皆様にひととおり自己紹介をお願いしたいと思います。茅野副座長から、順番に席の並びに従って、各団体の代表者の方に自己紹介をお願いします。

(順次自己紹介)

(土田座長)

ありがとうございました。それでは、協議事項に入ります。

まず、協議事項の(1)「『地方の元気再生事業』の提案内容について」です。事務局からご説明をお願いします。

事務局(轟環境課長)

資料1 霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト

資料2 霧ヶ峰の観光統計 により説明

(土田座長)

ありがとうございました。

ただいまの説明に関し、ご質問はありますか。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

取組み 公衆トイレ整備方法検討のための実験調査は、仮設トイレを造るという意味ですか、正規のトイレを造るのですか、その意味がわからないのですが。

事務局(轟環境課長)

今回はあくまで仮設のトイレを設置してみて、将来本格的なトイレを造るご検討をいただくためのデータを得ようというものでございます。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

それは利用者が何人かという意味ですか。

事務局(轟環境課長)

一つには、利用者が何人ぐらいいらっしまったのか、それから維持管理にどのくらいの手間やコストが掛かるものなのか、といったようなことをデータ収集したいと思いますし、あわせて今回は民間の調査会社に委託する中で霧ヶ峰のような場所、水が少ない高冷地である場所に一番適したトイレの仕様、形態というのはどういうものかといったことも併せて提供していただきながら、また、それをベースに協議会の中でご検討いただきたいと考えております。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

仮設トイレはそんなにいい加減なものではないでしょう。バイオトイレを造るという意味ですか。

事務局(轟環境課長)

バイオトイレを造りたいというのはやまやまですけれども、何分バイオトイレを置くだけで相当の金額がかかると思いますので、やむを得ず今回の場合は通常の仮設トイレということになるのかなと考えております。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

工事現場にあるあれですね、わかりました。

もう一つ、インタープリターとはあまり聞かない言葉ですが説明をしてください。

事務局(轟環境課長)

あまり聞きなれない言葉もありますが、これまでエコツアーについてお話が出ております。エコツアーを行うにあたって自然と参加者との仲介役を行う人、質の高いガイドを行う人それがインタープリターということになります。いわゆる人と自然の中継ぎをする、仲介役をするという行為がインタープリテーションというように呼ばれておりまして、ただ単に花の名前を教えるだけではなくて、霧ヶ峰という空間を満喫していただくために、心に直接訴えるようなガイドができる人をインタープリターと考えていただければよろしいと思います。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

わかりました。

(土田座長)

次に、提案内容についてご意見がありましたら、お出しいただきたいと思えます。

(霧ヶ峰ネットワーク 熊田 氏)

よくまとめていただいいてよいと思います。取組み のオフピーク対策試行調査というところに、インタープリテーション、インタープリターという言葉がたくさん出てきます。霧ヶ峰に観光に訪れる方はインタープリターを介してだけ来ているわけではなくて、ふらっと立ち寄る方もいますし、自分たちで歩いて植物とか景観とか楽しむ人もいます。

そういった方も含めて、オフピークの時に来てほしいというのが多分現実だと思いますし、インタープリターだけというふうにしてしまうと、人数を限られてしまいます。利用の仕方、霧ヶ峰の魅力とその利用の仕方についても、検討していくようなものがあっていいのかなと思いました。また、検討した結果を多くの利用してくれる方々とか興味を持っていただける方々に情報を発信していけるようなシステムになれば霧ヶ峰全体にとっていいのかなと思いましたので、提案書の中で実施する実施しないではなくて、今後検討していく必要があるのかなと思いました。

(土田座長)

内容を増やすことは可能ですか。

事務局(轟環境課長)

ただいまの熊田さんのご意見、おっしゃるとおりでございまして、大変貴重なご意見ありがとうございます。今回取りまとめた中での考え方といたしますと、わかりやすく3分類したほうがいいかなということで、ピークに対するオフピークという形でまとめてございますが、ただいまのご提案の内容につきましては、インタープリターだけですべて観光客に対応できるわけではございませんし、それがニーズのすべてではないというふうに考えております。そこで、インタープリターを必要としない観光客の方々にとっても魅力的な霧ヶ峰でなければならない。そのための施設整備や案内というのが十分でなければならない。それをどこでカバーしようと考えているかと申しますと、彩り草原空間の形成プロジェクトを将来的に展開していく中で行っていくことかなと考えております。それをどのように効果的に行うのか作業部会でご検討いただく、そのために専門家のアドバイスも受けていくという考え方でおりますので、ご理解いただければと思います。

(土田座長)

熊田さんが言われたことは、この協議会の中で検討していく用意はあるということでございます。ほかにご意見ございますか。

(諏訪地域自然保護レンジャー世話人会 三村 氏)

ピーク対策についての調査というところで、シャトルバス・ラウンドバスについて質問をしたいと思います。この事業については、あくまでも霧ヶ峰ということであって八ヶ岳中信高原国定公園ということではないと思いますが、昨今霧ヶ峰でインタープリテーションしてますと、美ヶ原のほうからずっとこちらのほうに歩いて来られる方が多かったり、また車で来る方も多いわけなんですけれども、そこで、ラウンドバスになるうかと思えますけれども、自然に対するの負荷ということだけでなく、観光面で美ヶ原から白樺湖あたりまでという考え方をしていくと、今年の夏あたり美ヶ原からの動向調査をすれば、おのずとわかってくると思えますけれども、そのへんのところは、向こうも含め広くという考えなのか、美ヶ原のほうからもこういったプロジェクトが現在立ち上がっているのかお聞きしたい。関連性を持たせるのが可能かどうか。

事務局(轟環境課長)

シャトルバス・ラウンドバスについてのご質問ですが、まず、基本的な考え方として美ヶ原から白樺湖を通り、さらに蓼科高原、八ヶ岳に至る広域的な観光連携ということはひとつ念頭におかなければいけないというふうに考えております。ただ、具体的にどういうふうにできるかというのは、シャトルバスの運行実験は、年度とすると来年度の予定になっていきますので、今後とも皆様方のご意見を伺いながら、できる範囲で広域連携を図っていきたいと思います。ちなみに、美ヶ原に協議会がございますけれども、具体的に美ヶ原でシャトルバス・ラウンドバスを行うという動きはございませんから、今後の動きを見ながらご相談申し上げたいと思っております。

(諏訪地域自然保護レンジャー世話人会 三村 氏)

わかりました。ありがとうございました。

(土田座長)

ほかにご意見ございますか。

(霧ヶ峰旅館組合 朝倉組合長)

事務局の皆さんすばらしい提案をしていただいてありがたいなとそんな風にするわけです。

インタープリター、エコツアーリズムここら辺のところは、霧ヶ峰のこれからキーワードではないかなと思っております。なぜかと言いますと今霧ヶ峰の観光というのは、登山靴を履いたお客さん、ハイヒールを履いたお客さんが混在するという、そういう観光地なわけなんです。どうみても不釣り合いなわけなんです。1900mの最高標高地点でありながら、ハイヒールそれからミニスカートのお客さんがシーズンにはかなり入って来られる。そうかと思うと登山客若しくは草原を楽しまれるお客様が同時に景色の中に写るわけなんです、私たちの戦略として何が大事なのかな、霧ヶ峰のイメージとして何が大事なのかなということ、やっぱり滞在をし、そして霧ヶ峰の植生、そして自然というものをこんなすばらしいところがあるんだなという認識をして帰っていただく。そのこのところの戦略を抜きにして霧ヶ峰というのは整然としたすばらしい観光地には成り得ない気がしております。このインタープリターそういう風な雰囲気作りで私たちは取り組んでいくということを主体にイメージの中に描いていただければ、私はありがたいなというふうに地元において思うわけなんです。

それから、私の記憶では、こういったプロジェクトを霧ヶ峰の中に、また、これだけの皆さんが一堂に会して検討するという事は、私が大学から帰って

来てからなかったことかなと最後のチャンスのような気がしているわけですが、事務局の皆さんこういったプロジェクトは過去に数十年のうちにあったのか。そういうふうなことも教えていただきながら、一堂に会している方がこれは最後のチャンスだよ、これは、みんなで絶対取り組んでものにしなければいけないんだよ、という認識も再度していただきながら、この会をすばらしい結果づくりに向けて、していただければなと思うんですけれども。質問も含めてお願いします。

事務局(轟環境課長)

ただいまの朝倉さんのほうからご質問、あるいは、アイデアをいただきまして、大変ありがとうございます。インタープリテーションのアイデアの部分につきましては、今後採択された場合の事業展開の中で活かさせていただきたいと思いますが、後段ご質問のございました、こうした霧ヶ峰の関係者の皆さま方全体での大きな取組みというのがこれまでであったのかというご質問でございますけれども、県のほうで確認している限りは、こうした全体での取組みというのは、これまでなかったかと思えます。昨年おかげさまでこの協議会を立ち上げていただいたということでございますが、朝倉さんからお話がありましたように、また、私が説明の中で申しましたように、土田先生のご研究によってもこれから半世紀あるいは70年経ちますと草原のかなりの部分が森林化してしまうというご研究もございます。そういったことに代表されるような自然の変容というのは、これから急激に進んでいくということ。それから、観光面でも先ほどデータでお示しいたしましたように、下降傾向にある。また、ここしばらく下降傾向の中で観光にたずさわる皆様方もだいぶご苦労されているということもございますので、朝倉さんのことばをお借りすればタイミングとすればぎりぎりのタイミングかな、最後のチャンスかなと私ども頭の片隅では感じているところでございます。皆様方のアイデアをいただきながら、地方の再生事業も活用しながら、活発なご議論をいただき、いい案を創っていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(土田座長)

そのほかご意見はございますでしょうか。

(信州大学 大窪准教授)

取組み の内容としまして、資源としての雑木、草の活用可能性調査というのがありまして、これはとても重要なことだと思います。草原の維持復元ですね、それに合わせて生業としての生産活動というものを復活させる。一部では

ありますけれどもこういう取組みは、非常に重要だと思います。既に、九州のほうの阿蘇、九重地域では、雑木や草を利用したブランド野菜の生産など行っているようなんですけれども、こういう事業が、現実に取り組みとして成功しているというようなことがお分かりであれば、教えていただきたい。

事務局(轟環境課長)

今大窪先生からお話ございましたように、阿蘇・九重のほうでは、先進的な取組みもされております。先ほど、私がお説明したなかで、一つのアイデアとしてあり得るのかなというもので申しますと、阿蘇・九重の場合は、「草原を感じる野菜」というようなブランドを作りまして、草原の草を堆肥化して、阿蘇・九重のブランドの野菜を作ることが現に行われております。そういった活用方法は参考になるかなと思います。それ以外にも、阿蘇・九重では、エコツーリズムも含めまして行われておりますので、今後、詳しい資料を取り寄せまして、参考としてご提供して参りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(信州大学 大窪准教授)

もしそういう事業が成功されているかという状況がお分かりであれば教えていただきたい。

事務局(轟環境課長)

実際にブランド野菜が作られ、販売されている、現実のものになっているという部分では取り合えずの成功を収めているのかなと思いますけれども、具体的に、販売額がどのくらいなのかという部分は手元に詳しい資料がございませんので、今後調べさせていただきまして、今後の協議会の中でご提供申し上げていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

(土田座長)

ほかにご意見はございませんか。

(諏訪地域自然保護レンジャー世話人会 高橋 氏)

まずですね、インタープリターあるいはまた、オフピークその他ツールですとか、いろいろカタカナの横文字が、とても多いような気がするのですね。これは、私は、表面的にはわかりますけれども、内容が詳しくわからない部分かなりございます。したがって、これは、役所のお出しになる書類でございますか。私は、認識不足でわからないものですから、日本語に直せば、できるだけ日本語、横文字と併用させていただければ、大変ありがたいということで

ございます。

それから、もう一つ、この中で、彩り草原空間というのの一番最後、エコツーリズムモデル構築のプロジェクトの下に、霧ヶ峰ならではのエコツーリズムモデルを構築する。これが、一番大事なことではないかと認識しております。これをなくして、外のところのものを持ってきても霧ヶ峰に適用されないと思いますので、これを基本的考え方として、霧ヶ峰ならではのというのが一番大切なことではないかと思えます。これには、自然景観もあるし、それから、霧ヶ峰の過去に歴史があるわけです。人間と自然の山の係わった歴史、これは、霧ヶ峰ならではのものです、他に類を見ない日本で有数の人と山とのかかわり、長い歴史があるわけでございます。自然景観に目をとられることなく、人間と山とのかかわり、これも一つ基本的なものとして、話し合っていけば、面白いものになっていくのではないかと考えております。

(土田座長)

基本的には、この申請書に賛成であるということですね。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

私、5月3日、4日と休みだったので、霧ヶ峰へ車で行ってきたのですが、一番目ざわりなのは、人工林です、と私は思いました。特に、車山肩の黒々としたドイツウヒ。これは、不自然ですよ。さっきの環境保全研究所の写真を見せていただきましたが、50年の差で、一番大きく感じたのは、人工林が非常に増えているということです。カラマツ、ドイツウヒを含めて、私は、森林肯定派なんですけれども、人工林というものは、非常に目立って見苦しい。

火入れしたところ、ウサギが何匹か飛び出してきた。その上に行くと、熊の枝折りが何箇所も発見できます。野生動物にとっては、雑木地域というのは、ある面じゃ生活の糧にしているのは事実なんです。そういうことも考慮していただきたい。

人工林は、せめて間伐してほしい。森林を減らすのであれば、人工林を減らすことを考えてほしい。

もう一つ、車山肩のところに、展望レストランですか。廃屋に近いような感じなんですけど、観光面で見ると見苦しいと思います。

(土田座長)

人工林の件につきましては、以前からご意見が出ております。まあ、この取組みのところで、課題として出てくると思いますので、その中で検討していくことは可能だと思います。



事務局(轟環境課長)

ただいまの飯田さんのご発言の関係で、今座長さんのほうからお話ございましたように、人工林への対応、あるいは、廃屋への対応、また霧ヶ峰の景観に関する対応、いずれも、今後作業部会等でご検討いただくなかで、皆様方にお話し合いいただきながら、ご検討いただければというふうに考えております。

それから、高橋さんのほうからお話のありました、何分横文字が多くなっておりますが大変申しわけございません。エコツーリズム自体が割合最近の概念でございまして、その用語がことごとく横文字になっておりまして、使わざるを得なかったという点がございまして。また、スペース的に限られているものですから、それを、訳しますと、スペース的に入らないという苦しい事情がございまして。提案書本体には、ある程度噛み砕いて書かせていただいている部分もございまして、また、今後事業が採択されて、たとえば、PR 版等作っていく段になりますと、インタープリターの側から書くのではなくて、受け手の側から書いていけばよいわけです。そこでは注意して参りますので、よろしく願います。

(土田座長)

その他何かございますか。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

先ほど、人工林が見苦しいとかそのような話がありましてけれど、霧ヶ峰は、我々地権者が土地を持っています。そういった中で国の政策もありまして、植林をしてきました。植林した林が見苦しいから切れとか、ない方がいいとか、そういうふうにフィーリングだけで簡単に言ってほしくないんです。さっきのトイレの話もそうなんですけど資料にあります。しっかり読んでから発言してください。

そう言った中で霧ヶ峰をどういった方向に持っていくかということをお話しているわけですから、良い意見を出して、ベクトルを合わせて、その方向に皆で進もうとしている訳なんです。そう言った中で他の人のことを考えずに、ただ言いたいことだけを言う会議はやめてほしいんです。もっと建設的な意見を出してほしいと思います。

(土田座長)

お話しいただいております、このプロジェクトにつきまして、申請時期が間近に迫っております。その面で、これを皆様の合意を得なければならない状況でございまして。内容の中で書かれていること以外にもいろいろ問題があると思っておりますけれど、基本的には、この内容に特に大きな変更や訂正、新たなご提案

とかが現在、特にないような感じでございますけれど、そろそろこの案につきまして皆様のご承認、ご確認をしていきたいと思っております。地方の元気再生事業につきましての、当協議会から申請する「霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト」につきまして、この案を基本的にご賛成いただけるようでしたら拍手をお願いしたいと思います。

「拍手多数」

(土田座長)

ありがとうございます。それでは、一部は訂正のあるような部分もありますので、それらは調整をしていただきまして国に提案して参りたいと思っております。この「地方の元気再生事業」については、全国からたくさんの提案が見込まれるようです。競争率は高くなると予想されますが、採択されるよう努力していきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をお願いします。また、環境省機関の皆様のご協力も是非お願いしたいと思います。

(2)の議題に移ります。

「目指すべき霧ヶ峰の姿の実現のために実施する事業について」です。これは、今まで数回検討してご意見をいただいております。その続きということでございます。これに関して資料がありますので、事務局から説明をお願いします。

事務局(轟環境課長)

資料3「自然再生活動に対する地域の“共感”とエコミュージアム」

資料4「思い出ベンチ」事業で公園のベンチ整備 により説明

(土田座長)

ただいま「エコミュージアム」と「思い出ベンチ」につきましてご説明いただきました。何かご質問がありますか。今まで「エコミュージアム」という言葉が何回か出ておりました、その内容につきまして「霧ヶ峰型のエコミュージアム」がいいのではないかというご説明がございました。これらもまたご参考にしていただきまして、引き続き「目指すべき霧ヶ峰の姿の実現のために実施する事業」につきましてご意見をいただければと思います。

この件に関しましては、今日が3回目でございますが、おおざっぱに言いまして今までいただいたご意見としては、草原の維持をどうするか。森林化にどう対応するかというようなことについていろいろご意見ございました。前回は、

「霧ヶ峰エコミュージアム」としたらどうかという意見、世界遺産への登録をしたらどうか、文化財的な価値と自然との融合というか「複合的な面を持った世界遺産を目指したらどうかという意見もございましたし、また、先ほど意見がでましたけれど、トイレの問題に象徴される「オーバーユース」、霧ヶ峰の許容量、環境への或いは自然への負荷という問題にどの様に対応するかということ、冬季のシーズンオフの問題、分散利用と言いますか、或いは冬季に起こっているいろいろな諸問題もございましたけれど、それらについて考えていくというようなご意見が出ております。

今日はまた改めてあまり時間もありませんけれど、スケジュール的にはもう1回、今日までに出た意見を、次回6月の協議会で総括して、作業部会で検討し、今後のあるべき姿実現のために対応していくということになると思うんですけれど、何か意見ありますか。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

さっきの地権者の方に聞きたいんですけど、間伐もまずいですか。特にあそこ黒々としているものですから、せめて間伐していただけたらと私思うんですけれどいかがですかね。

(土田座長)

いかがですか。

(下桑原牧野農業協同組合 宮坂組合長)

私たち地権者の関係の牧野がここに何団体かおりますけれど、たぶんこれ、今年度初めてということで、初めてお聞きになる方もいると思います。あそこの霧ヶ峰一帯の持ち主というのは、各牧野になっております。県のものでも、国のもので、市のものでない部分が、各牧野の持ち物になっておりまして、これらについて以前から先ほど、上桑原の組合長さんもお話ししておりましたけれど、長年に亘って国の方策として森林、林、植林というのをやった時期があります。今になって思えば、このカラマツ林というものが、今大変有用なものであるかは、これまた別問題でございますが、我々牧野のそれぞれ各牧野が毎年出払い等をしまして、一度には出来ませんが、間伐を行い、或いは、観光面振興のためには部分的に伐採までやって今日を迎えてるわけでございます。

そうした状況がございますので、それぞれ牧野の実態によってその進行状況に差があるかと思えます。周りの方がご心配していただくことは大変有り難いことではありますけれども、それだけ霧ヶ峰の草原というものに関心を払っ

ていただけるといふことに対しましては敬意を表しますけれど、そういう歴史の中で今日まで来ているということをおのころ十分ご理解をいただき、これからの霧ヶ峰をどうするかということに繋げていただければと思います。従いまして、間伐とか伐採を何もやってきていないということではありませんが、なかなか限られた資源を投じてやっていますので、それぞれお金もかかります、そういう中でやっております。最近はお市の方も協力していただきまして、ボランティアの方に集まっていただき、雑木の処理とか、或いは、県の方でお願いして間伐等もやっていただけて来ております。でもこれは順次やっております、一度にはなかなか出来ないものですから、そのときそのときの時代に合わせてやってきたということをご理解いただきたいと思います。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

ですから、時代時代は当然だと思ふし、今から、30年、40年前の政策をどうこう言っても意味のないことは分かります。でも、今度森林税ができて9割まで補助してくれることになったんですね、また材木自体お金になればどうですかね。材木の活用ということは考えられませんか。間伐ではなくて。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

その辺についても、よく「森林税」を調べて発言してください。

森林税、森造り県民税は出来るだけ里山を整備するもので、霧ヶ峰みたいな所を整備することが目的の税金ではないんですよ。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

そうだとおしても、もし、逆に森林がある程度お金になったら将来切るってことはありえますよね。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

皆さん出してくれればあり得ます。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

でも、いずれにしろ、この前見たけれども車山肩のところの下カラカラって感じで笹も生えていて、ちょっとあまり健全とは私思えなかったけれどね、せめて間伐ぐらいは考えていただけてほしいというのが私の考えです。間違っているかもしれないよ。でもそういう考えがあるってことも分かってほしい。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

そういうふうに、例えば、隣のうちの庭を見てあーだ、こーだって言うのは簡単なんですけどね、やっぱりね、持っている人の身になってみればお金もかかるし。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

そうやってしまえば意味ないですよ、この協議会自体は、「俺の土地だ、黙っている」の一言でお終いです。それは皆承知です。逆に聞きますけれど、トラスト運動とかで土地を売るってことは全く考えませんか。市町村とか、県とか、国とか或いはNPOとかでトラスト運動とかあるんですけど、こういうのに売っちゃうとかそういうことは考えませんか一切。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

それはそんなに簡単に出来ないですよ。NPOに売っちゃえなんて。例えば、作業する場合にそういうこと言う方は参加していただけますか。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

皆さん方負担が大変だって言うから聞くんですよ。

(上桑原牧野農業協同組合 茅野 氏)

だから、口で言うのは簡単なんですけど、実際、持って管理するっていうのは非常に大変なんですよ。

(環境会議・諏訪 飯田 氏)

大変だから、手放すっていう考え方はどうですか。

(下桑原牧野農業協同組合 宮坂組合長)

もう一言お願いできますか。ぜんぜん発想は違うんですけども、今たまたま向こう100年の霧ヶ峰をどうしようかっていうような、いわゆるかなり向こうの話までしようとしているんですが、われわれ地権者という立場から考えたときに、これからは温暖化というものが、この100年のうちにかなりの進捗で進むとします。そうしたときには、われわれあの土地をどう利用するか、っていうような立場もございまして、場合によってはちょうどあの千五百～六百メートルのあの高地というのは、これから畑にするというような状況も出てくるかもしれません。ですから今はそこまでいなくて、今できることをどのようにしたらいいかという取組みをしておりますので、それぞれの立場の違いはいろいろあるかと思いますが、共通してできることをね、今ここでやれるように

しようということで、まず木の枝振りのことじゃなくて、森を見よという線です、この話をまとめていくことが肝要かと思います。以上です。

(環境省長野自然環境事務所 中野 氏)

私この前は本省にいたんですが、平成10年から18年まで釧路の自然再生事業の事務局をやっておりました。その中で、いちばん事務局で苦労したのが、自然環境の保全とか自然再生というのは、皆さんの理解と協力がないと進まないということを強く感じました。つまり、対立の中では、まったく進まないんです。それでそのときに例として、釧路の湿原の再生をやっているときに出したのが、湿原を保全しようという声と、あと農業との対立だったんです。それで農業の方は、「釧路湿原を守ろうという方が、もう農地を放棄しろと言っている」というようなことを言っているし、農地については、農家も同じで「国の施策でそういう牧野を増やそうとか、国の施策で一生懸命協力してやったのに、なんで今ごろ悪者になるんだ」というようなことをおっしゃっていて、それでなんかそういう対立の構図ができてきちゃったんです。それで、それは違うんだということで、何回か話し合いをしました。そこで、皆さん目指す方向は湿原を守ろうということで一致してたんです。ただ、その、なんとなく相互理解が少なくてそういう対立軸になったということがわかったんです。というのは、湿原を守ろうという人も全部、その農地をやめろと言っているのではなくて、農地として適さないところとかを、なんとかそういう湿原に戻す努力はどうでしょう、とかですね。それで農家の人も、そういう湿原に戻そうというような、つまりピタピタしたようなところは、農地として向かないんですね。ですからなんかそういうきっかけがあれば別に手放してもいいかな、っていうようなことで、そういうところで相乗りができてきたんですね。そこでじゃあ、お互いどういうことができるかということで、そういう釧路の自然再生をこういうふうにいこうという目的と、具体的な目標、あと施策ができました。

一応私はそこで終わっちゃったもんですから、その後あまりどうなったか確認してないんですが、とにかく対立ではなくて、皆さんが話し合って協力していくことが大事であるということと、あと誰が誰ということではなくて、誰もが協力して、少しずつ協力して、誰もが少しずつ我慢するというのが、大事だと思います。さきほど霧ヶ峰旅館組合の方もおっしゃったように、やっぱりみんな協力して、他人事じゃなくて自分のこととして考えてやるということが非常に大事だと感じました。ちょっと霧ヶ峰には関係ないかもしれませんが、私の今までの経験で言わせていただきました。

(土田座長)

非常に貴重なご意見ありがとうございます。皆さんそれぞれの方々が協力していくという、まあ知恵を出し合っているものをつくっていくということが大事であるということでございます。意見の対立も多々ありますけども、建設的に、またお互いの立場を尊重

しながら協力していく、それ以上の進めていく方法はないんじゃないかというようなお話だと思いますけども、具体手なご提案がありましたらお願いします。

(霧ヶ峰旅館組合 朝倉組合長)

提案ではないですけど、ちょっと県のほうにお聞きしたいのですが、昨日も下桑原さんの組合長さんに許可をいただいて、雑木を霧ヶ峰の自治会でやったんですけども、レンゲツツジの間引きといいますか、そこらへんのところは明確な方針といいますか、レンゲツツジを今までは切ってはいけませんよという、指定植物になっていたり、そのことをこれからどんなふうにしていくのか、ちょっと具体的なあれをお聞きしたい。それからあと、外来種の対応ということもありますけども、昨日も私も、いろんな話をする中で、高ボッチですとか、それから鉢伏山はもうニッコウキスゲがなくなってしまったと。これも先ほど言った温暖化の影響で、かなりこれも深刻になってきているのではないかなというふうに思うんですけども、暖かくなっていく形の中で、今からそんな対策も、ニッコウキスゲは夏の霧ヶ峰の花ですので、そんなふうなことを学術的に分かるの先生がいらっしゃれば、お聞きしたいですけど。

事務局(轟環境課長)

それでは、後段のほうの温暖化等の影響については環境保全研究所で、わかる範囲でお答えしたいと思いますけれども、前段のほうのレンゲツツジへの対応でございますが、朝倉さんおっしゃいましたように、レンゲツツジは国定公園の指定種になっておりますので、直ちに手を入れるということとはできないという扱いになっておまして、その旨これまでご説明をしてきているところでございます。ただ指定種はレンゲツツジだけではなくて、様々な指定種がございます。レンゲツツジは以前は牧野組合の方々の草刈りがしっかり行われている頃には、家畜にとっては毒だということで、十分に綺麗にされていたというふうに伺っております。以前に比べると非常にレンゲツツジが茂ってしまっている、茂っているがためにその他の指定種が日影になったり駆逐されたりして少なくなってしまうということもあるようでございます。従ってそこらへんの実態をよくデータの的に今後協議会の中で、特に作業部会で整理していただきまして、レンゲツツジといえども、ほかの指定種との兼ね合い等も含めてですね、レンゲツツジに対してどういう整理をし、手入れをしていけばいいのかというあたりはよくご議論いただいて、方向性を出していただければ、県としても自然公園法上の取扱いの整理というのができるかなあというふうに思っておりますので、今後のご議論を是非宜しくお願いいたします。

(環境保全研究所 大塚部長)

ただいまレンゲツツジの関係につきましてもですね、レンゲツツジ自体も森林化を

促進している部分であります。ただ一方、レンゲツツジも景観とすればですね、それも1つの観光資源になっていますから、それは両者兼ね合いで、例えばそれは、どこをどういうふうにしていこうかというもの、ゾーニングなり、でレンゲツツジをうんと見せる場、森林化を阻止するための草原を維持する部分、そこらへんの兼ね合いを協議の場でもってですね、どういった形にしていこうかというところでご協議していただければいいかと思います。

あと温暖化の関係についてはですね、シカが増えているという部分を、確かに温暖化に一因があるかと思いますが、いずれにしてもシカが増えすぎて生態系のバランスを崩しているという部分で、確かに高ボッチとかですね、鉢伏山ですね、あの辺り本当にもう花がないほどに食害を受けてしまっていますね。もともと鉢伏山の辺りは花の百名山と言われる場所でしたから、本当にニッコウキスゲが霧ヶ峰と同じような形で景観として素晴らしい場所だったかと思います。霧ヶ峰はまだそこまではいらないんですけども、今のような状態でどんどん増え続けるという形であるとすればですね、本当にニッコウキスゲがあれだけ素晴らしい景観を維持できないほど、今でも食害はかなりあります。ただこの場が広いということで、まだまだ目立ったところまでいっていないと思うんですけども、そういうところまでいかない形の中で、そのシカ対策っていうのをこれから、今日もこの後でいろんな対策を説明する場面があるかと思いますが、確かにそういったシカが観光資源に与える影響っていうものは、これから、そのままにしておきますと本当に高ボッチとか鉢伏山の形になっていく可能性もありますので、早急な対策が必要かなと思います。温暖化かどうかという部分については、それはひとつの一因があるかと思います。

(土田座長)

実は、その他の部分で、ちょっとまあいくつかありまして時間がかかりそうです。この課題につきましては終わらせていただきますけども、よろしいでしょうか。時間の関係上、一応この(2)の議題につきましては、今回はこれで終わらせていただきます。

次回の協議会で目指すべき霧ヶ峰の姿とそれを実現するために実施する事業につきまして全体を通して取りまとめ、総括的なご意見をいただいた上で、7月から作業部会での検討に入ってまいりたいと思いますので、宜しく願いいたします。つきましては、次回の協議会の日程を決めておきたいと思います。事務局の案はありますか。

事務局(轟環境課長)

次回の日程案説明



(土田座長)

ただいま、6月26日(木)というご提案でございますけれども、よろしいでしょうか。皆さんも大変だと思いますけれども、是非ご参加をお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

その他なにか皆様から、ご意見、あるいはご発言がありましたら、事務局の方からは何かございますか。

(自然保護課 市原主任)

「ニホンジカによる植生被害調査への協力について」説明

(土田座長)

ありがとうございます。ただいまご説明のありました点につきまして、何かご意見等ございますか。ご質問等ございましたらお願いいたします。

(八島湿原山小屋組合 田口組合長)

電気柵なんですけど、この霧ヶ峰、ご承知のとおり観光地でございますので、今この資料の設置する場所を見させていただく中では、かなり接近するような、観光客が接近するような場所がございますが、そのへんの、なんと言いますか、告知は当然ですが、安全性というか、そういう部分はどんな配慮があるんでしょうか。

(自然保護課 市原主任)

今個々の資料、細かくご説明申し上げないで申し訳ありませんでした。電気柵の配置につきましては、資料の3枚目、別紙3というところにですね、今年度当初の配置案というものを皆様にご提示してございます。電気柵なんですけども、今年度、事業として、設置延長を1kmほどということで、環境省からお金をいただいているわけなんですけども、この設置箇所につきましては、今後そのシカの追跡調査をやっていながら再度検討しながら地権者様等にご相談申し上げて、設置を進めてまいりたいと思っております。今、田口様の方でご心配いただいたとおり、ひとつは観光客の皆様を始めとして景観という面もございますので、その点、充分検討しながら配置箇所というものを今後考えてまいりたいと思っております。

それからこの設置時期ですが、先ほどこれもご説明をしっかりと申し訳ありませんでした。時期については5月の下旬から6月をめぐりに、ニッコウキスゲが咲く前の時期に設置できるようにということで今後検討していきたいと考えております。なにぶんにも電気柵の設置につきましては、関係者その他の皆様と調整を行いながら、安全な方法で設置していきたいと、それで是非、ニッコウキスゲの食害に対して効果がでるような実証ができればと考えておりますので、宜しく願いいたします。

(土田座長)

ほかにございますか。それでは皆様方の御協力をお願いいたします。ほかにも事務局からどうぞ。

事務局(轟環境課長)

- ・ 100年後の霧ヶ峰をつくるご意見便について説明
- ・ 次回協議会で作業部会設置の決定をするのに先立ち、どの分野の作業部会への参加を希望するのか、文書照会をさせていただきたい旨、協力依頼

(土田座長)

作業部会に向け、皆さんからのご意見をたくさんお出しいただきたいと思いますので、このご意見便に是非お寄せいただくようお願いいたします。また、作業部会の分野につきましてもあらかじめご希望をお考えいただき、お答えくださるようお願いいたします。

これで一応本日の議題等は終了いたしましたので閉会いたします。どうも御協力ありがとうございました。

(別紙)

上桑原牧野農業協同組合

下桑原牧野農業協同組合

小和田牧野農業協同組合

霧ヶ峰湖東牧野農業協同組合

霧ヶ峰高原牧野農業協同組合

物見石牧野畜産農業協同組合

南信森林管理署

霧ヶ峰旅館組合

霧ヶ峰インターチェンジ商業会

諏訪市観光協会

車山高原自治会

茅野市観光連盟

車山高原観光協会

八島湿原山小屋組合

下諏訪観光協会

霧ヶ峰バス事業者連絡会

社団法人長野県環境保全協会諏訪支部

諏訪地域自然保護レンジャー世話人会

霧ヶ峰パークボランティア連絡会

霧ヶ峰ネットワーク

環境会議・諏訪

霧ヶ峰ガイド組合

車山ガイド組合

霧ヶ峰インタープリテーション KiNOA

諏訪教育会自然研究部

国立大学法人信州大学

環境省中部地方環境事務所長野自然環境事務所

諏訪市

茅野市

下諏訪町

長野県生活環境部自然保護課

長野県環境保全研究所

長野県諏訪警察署

長野県諏訪建設事務所

長野県諏訪地方事務所